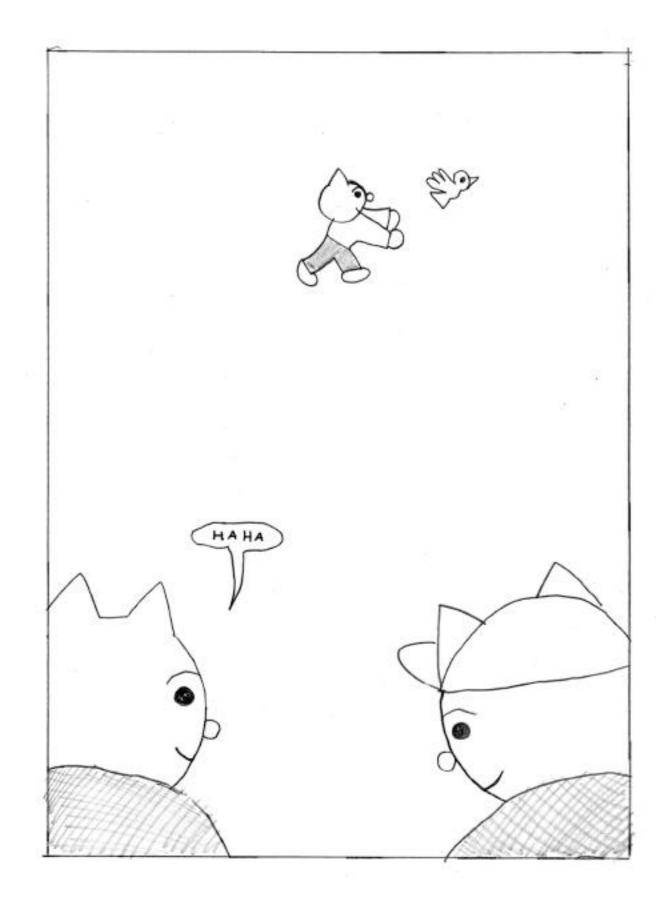
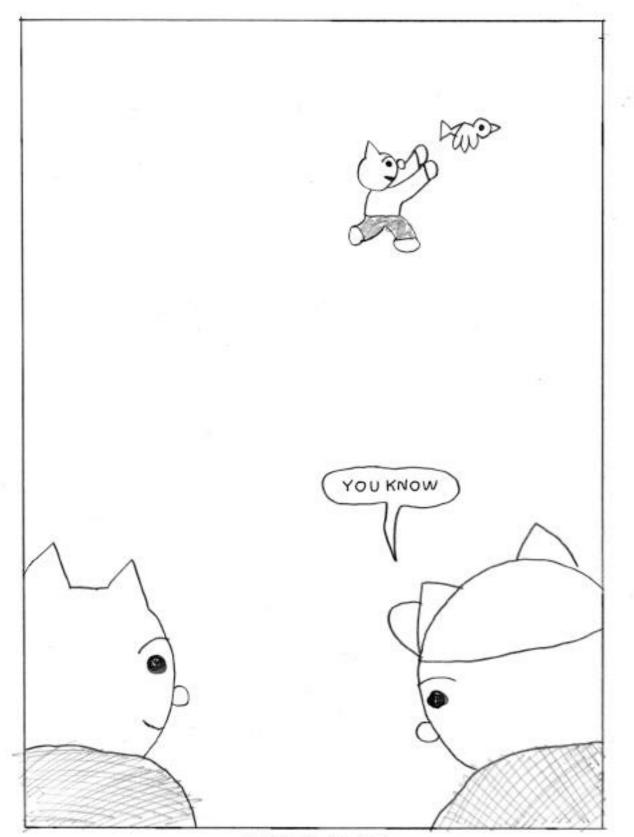


rtentel

## OUR WORLD CHANGED ON OCTOBER 7TH. WE BOTH FELT LIKE OUR HEARTS COULD NO LONGER SMILE. EXCEPT FOR THE MOMENTS WHEN WATCHING OUR CHILD LAUGH AND PLAY HAPPILY.

私たちの日常は10月7日を境に明らかに変化した。 おたがい心から笑うことができなくなっていたように思う。 唯一、何も考えずに実顔になれたのは 我が子が笑い、しあわせそうに遊んでいる姿を見ている瞬間だった。

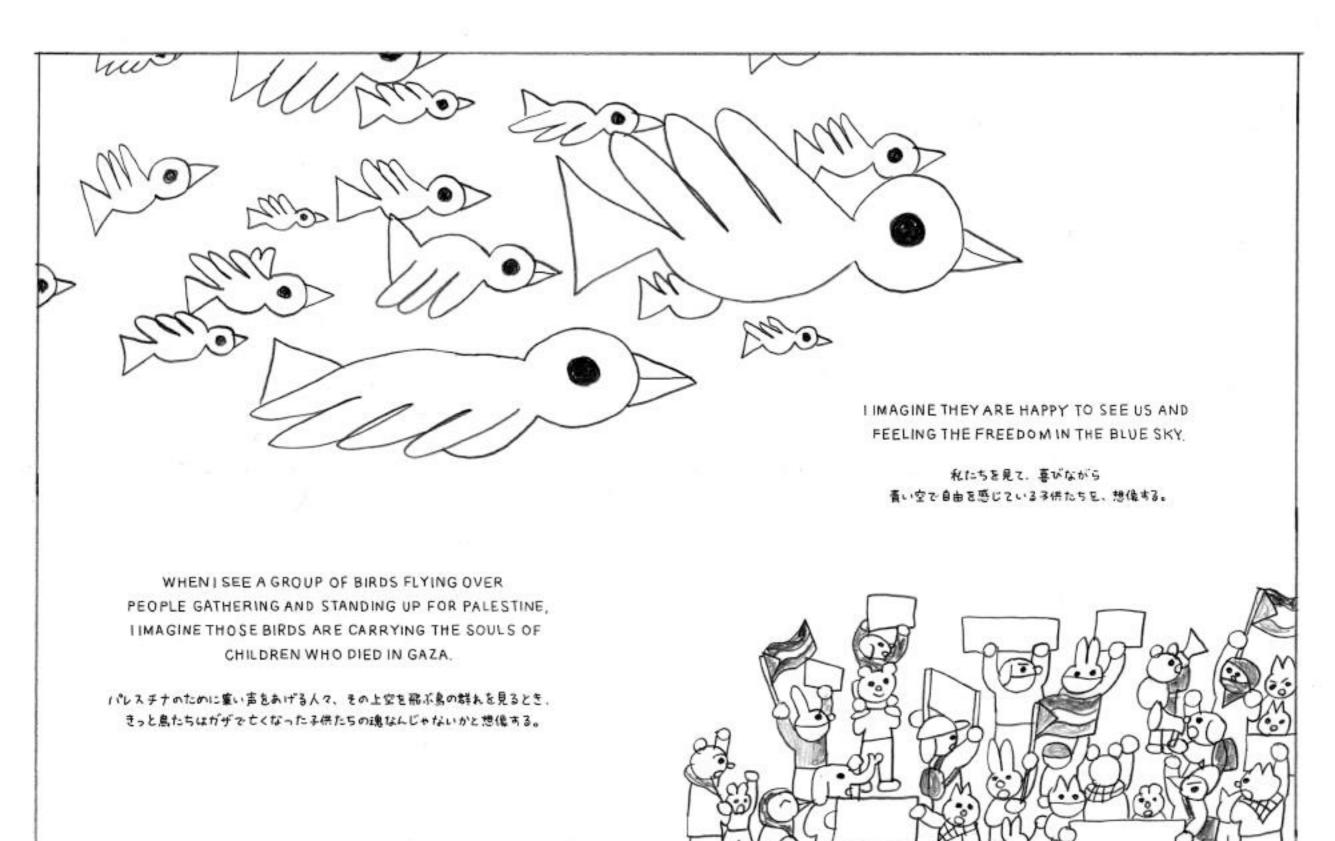




「なんかさ、思っちゃった」

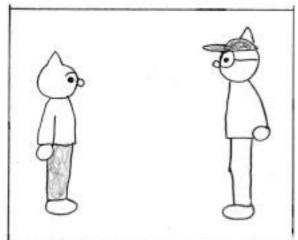


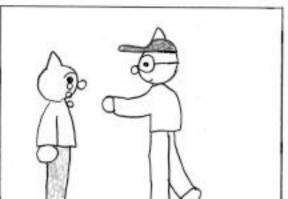
「ガザで生まれていたかもしれないんだよね、この魂も。」





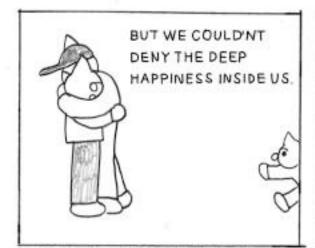
新いい命を授かった。





I REMEMBER
WE BOTH HAD
MIXED FEELINGS.

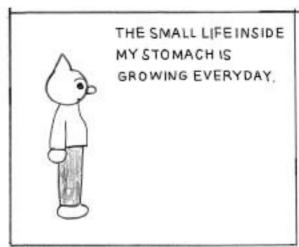
おたがい、複雑な気持ちだったのを覚えている。



でも私たちの中にある深い喜びを否定することは、やっぱりできなかった。



命がどれだけ愛おしく奇跡的な出来事なのかいまだからこそ、あらためて強く感じていた。



お纏の中の小さな命は、毎日成長していった。



5+月



6 TA



7ヶ月



小さな命はこの世界に生まれ出る準備をしている。



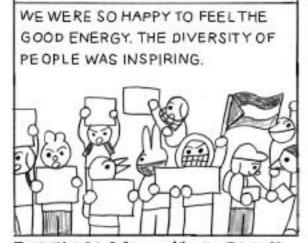
ジェノサイドを継続させる、この世界に。



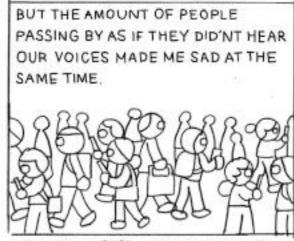
妊娠6ヶ月頃、家族で何めて東京を訪れた。しばらく 会ってなかった友人達と再会したり、デモにも参加した。



**喜田馬場駅前のデモに参加したとものこと。** 



国や世代をこえた多様な人々が集い共に声をあげる 力強いエネルギーにとてもインスパイアされた。



同時に、私たちの声が全くぎこえていないかのように 目の前を通りすぎていく人の多さに悲しさも感じた。



そしてとにかく私は疲れていたので



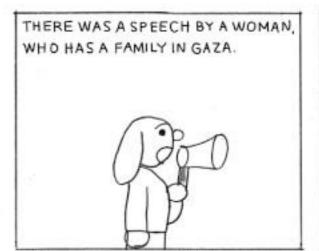
3供も大人も座ってプラカードやおえかきができる場所を 用意してくれたお母さんを見つけた時は心から感謝した。



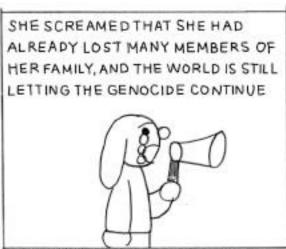
コールがはじまると、



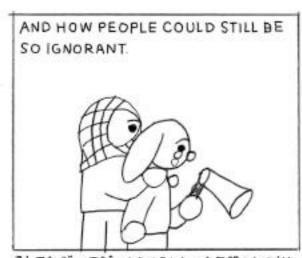
2才の我が子も自分のプラカードを振りながら 小さな声でコールをしていて、とても誇らしかった。



がザに家族を持つ一人の女性のスピーチがあった。



すでに多くの家族を失ったのに、世界はなぜまだこの ジェノサイドを継続させているんだと彼女は叫んだ。



そしてなぜ、いまだに人々はこんなにも無側になのかと。



この時までパレスチナ人の言葉を実際に目の前で 聞いた経験がなかった私の目からは自然に深が溢れた。



突然、自分の頭の中が不安な気持ちでいっぱいに なっていることに気がついた。



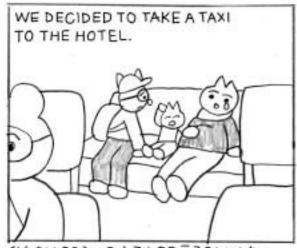
コールのリズムをとるドラムの鼓動さえも、お腹に響いてドクドク痛むように感じられた。



まさかお腹の赤ちゃんに何かあった? 歩きすぎた?無理しすぎた?

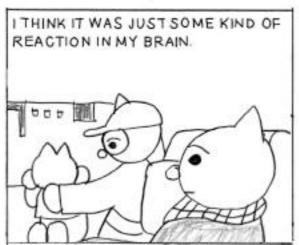


うまく呼吸できない

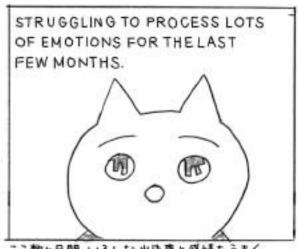


私たちはタクシーでホテルまで戻ることにした。

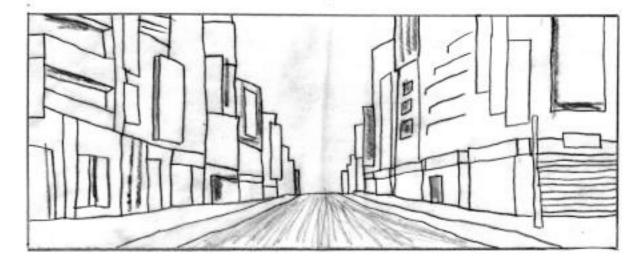


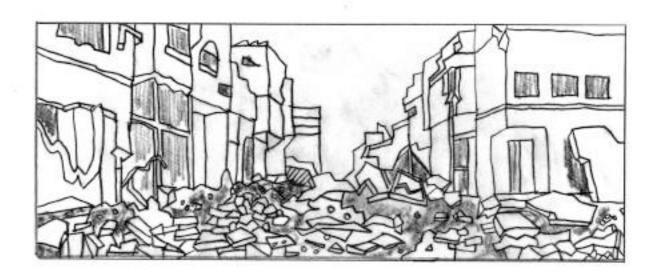


私の脳は少し混乱していたんだと思う。



ここ数ヶ月間、いろんな出来事と感情をうまく 処理できずにいた私の脳が。





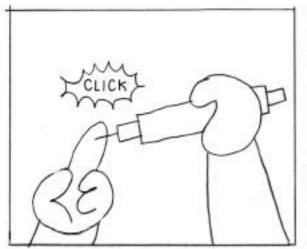


しゅうシュ

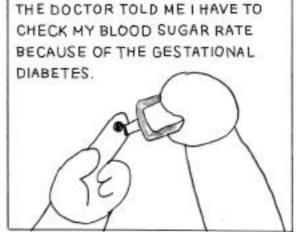
## FIRST TIME ALOPECIA AREATA (SUDDEN HAIR LOSS) ON MY HEAD

人生初めての円形脱毛症

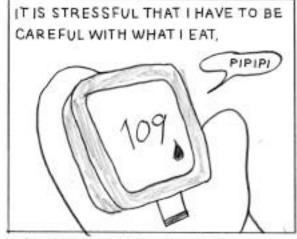




「カチッ」



妊娠糖尿病との診断。 血糖値に気をつける生活が始まった。



食事に気を使わなくてはいけない上に



1日3回指に針を刺し採血して血糖値を計らなくて はいけない。地味なストレス。



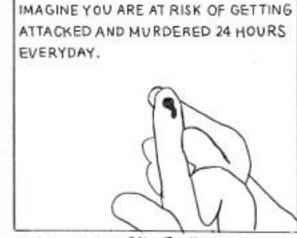
でも、ガザでの妊婦生活を想像してみる。



自分の家を失い、十分な食料、水もない 医療用品も病院も、医者もいない。



量たいお腹と荷物を抱えながら、 子供たちの手を驚きないように迷げ回る生活。

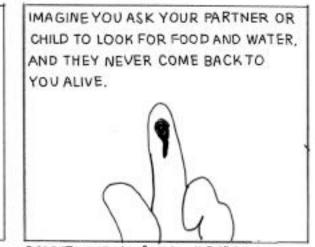


24時間、いつどこで爆撃を受け殺されるか わからない毎日。

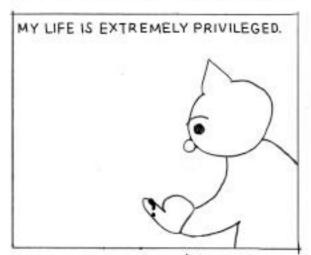
IMAGINE EVEN IF YOU GIVE A BIRTH TO A HEALTHY BABY, THERE IS NO SAFE AND CLEAN PLACE TO REST FOR EITHER OF YOU.



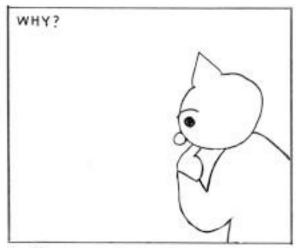
もし幸い健康な子供を産むことができても、 出産後に2人で休める安全で清潔な場所はない。



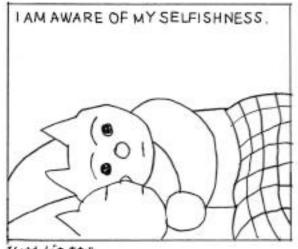
食料を探しに行ったパートナーや子供が 生きて自分の元に戻ってこなかった時の悲しみ。



私の生活はこれ以上ないほど恵まれている。



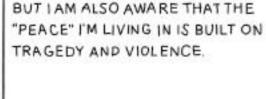
なぜ?

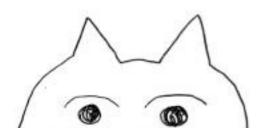


私はわがままだ。



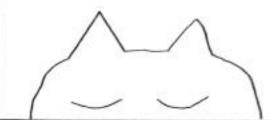
目の前にある平和な暮らしを失いたくない。





でも、この"平和"な暮らしが建てられているのは 多大な悲劇と暴力の上だという事も知っている。

PEACE BOUGHT BY A HISTORY OF IMPERIALISM AND COLONIALISM. COUNTLESS HUMAN RIGHTS VIOLATIONS AND WAR CRIMES COMMITED BY JAPAN.



日本が犯した教え切れない人権侵害と戦争犯罪。 帝国主義と植民地主義の歴史が買った"平和"だ。

MY GRANDPA WAS A SURVIVOR OF THE HIROSHIMA ATOMIC BOMBING.



私の祖父は広島原場の生存者だった。

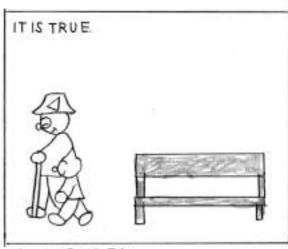
THEARD HIS STORY SO MANY TIMES HOW SCARY WAR IS AND THAT
"PEACE" IS WHAT WE SHOULD SEEK
ALL THE TIME.

祖父は会うたびに何度も話を聞かせてくれた―― 戦争がどれだけ恐ろしいものか。"平和"がいかに大切か。

I ALWAYS TOLD HIM HOW THANKFUL AND LUCKY I AM BECAUSE IF HE WAS KILLED THERE, I WOULD'NT EXIST HERE IN THIS WORLD.

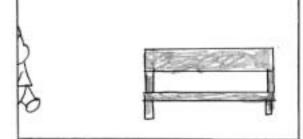


祖父が生き残っていなかったら今私は存在しない、私は幸運だ、ありがとう、とよく祖父に伝えていた。



本当にその通りだと思う。

BUT I HAVE NEVER REALLY
QUESTIONED HIM OR MYSELF ABOUT
HOW MANY FUTURE LIVES HAD
BEEN TAKEN BY JAPAN.



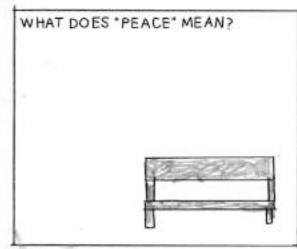
でも逆に日本がどれだけの未来の命を奪ってきたのか。 そんな疑問が頭をよぎることは一度もなかった。



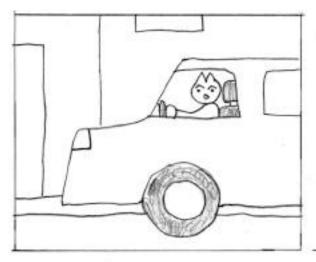
私たちの"平和"な書らしが、今もなお、多くの人々の 人生を抑圧しているなんて考えたこともなかった。



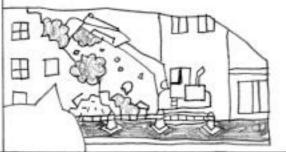
私たちは"平和"を求める被害者だと思っていた。



"平和"ってなんだ?



THE STATE OF ISRAEL WAS BUILT ON TOP OF THE LAND, PEOPLE, CULTURE AND HISTORY OF PALESTINE.



パレスチナの地、人々、文化、歴史の上に イスラエルは建国された。



パレスチナがイスラエルに占領されてパレスチナの 人々が故郷を自由を失い、もう76年以上が経つ。



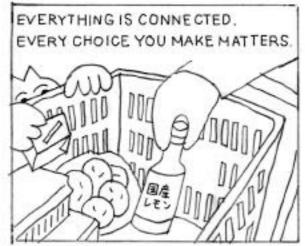
きしてイスラエルは今、 ガザを完全に破壊しようとしている。



私たちは今日、ジェノサイドを目撃している。



イスラエルの"平和"を守るためのジェノサイドを。



すべてつながっている。 私たちの選択すべてに、竟味がある。



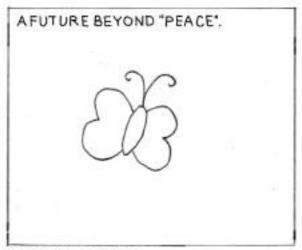
私たちの未来の行方を決める力を、 私たちの手元に取り戻そう。



パレスチナが 私たちに示しているのは、 \*平和"の前に解放が"必要 だということ。



パレスチナで起きていることは、これまで個々が 行ってきた選択の集合であり結果だ。



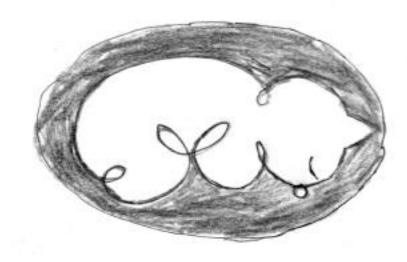
"平和"の先にある末来。



パレスチナに自由を。

## THE EXPECTED DATE OF BIRTH FOR OUR NEW CHILD IS JULY 15TH, 2024. WHAT KIND OF WORLD THE BABY WILL SEE?

出産予定日は2024年7月15日。 小さな命は、どんな世界を見るのだろう。



IT'S UP TO US. それは私たち次第。

